



きよせ市議会だより

平成十八年度一般会計予算 賛成多数で可決

平成18年
第1回定例会

平成十八年清瀬市議会第一回定例会は、三月二日(木)から二十八日(火)までの二十七日間の会期で開催しました。今定例会では、平成十八年度清瀬市一般会計予算及び国民健康保険事業、老人保健医療、下水道事業、駐車場事業、介護保険、受託水道事業の各特別会計予算等、市長提出議案四十一件、議員提出議案(意見書)八件、市民の皆様から提出された請願・陳情十一件を審議しました。



中央公園の桜

平成十八年度予算のあらまし

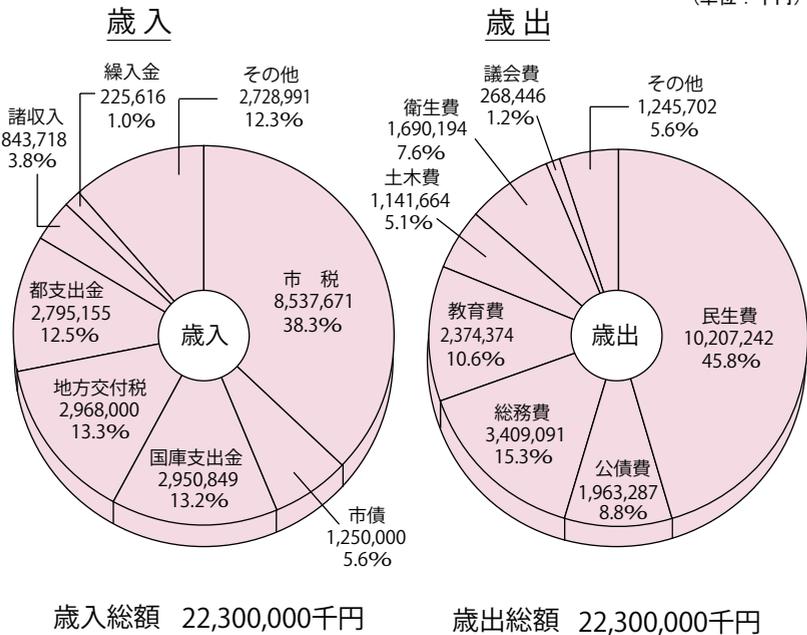
平成十八年度予算は、歳入の要である市税収入が、定率減税の二分の一の廃止等により個人住民税を中心に増加が見込まれますが、国の三位一体改革により地方交付税等が減額になるなど市財政を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況にあります。

このような中、市民の安全・安心の確保、子育て支援、災害対策、教育環境の向上などに対応する予算を計上しております。平成十八年度一般会計の予算規模は、前年度と比較すると率で〇・八%増の二百二十三億円となっておりますが、安全・安心まちづくりを推進する取り組みとして、小学校全校に防犯カメラの設置や学校体育館の耐震化・大規模改造工事、子育て支援として、子ども家庭支援センターでの事業やファミリーサポートセンター事業の展開、災害対策として、防災行政無線の更新(デジタル化)や地震計の設置、教育環境の整備を進めるものとして、小学校のパソコン教室にエアコンの設置、普通教室に扇風機の設置、小中学校の机椅子の買い替え等、活気ある協働のまち推進事業として、コミュニティバスの運行、清瀬市郷土博物館創立20周年事業として、きよせうちおり企画展の予算化を図っております。

特別会計予算では、国民健康保険事業特別会計及び介護保険特別会計の増額により、全体では前年度と比べて率で四・一%増の百八十一億七千万円となっております。

一般会計歳入歳出予算構成表

(単位: 千円)



反対討論 日本共産党

小泉政治の下、大増税と負担増が覆いかぶさる市民の暮らしには、深刻な格差が広がっています。身近な自治体として、いかに暮らしを守るかが問われています。私たちはくらしとの関わりで緊急性のない施策を凍結し、介護保険や障害者自立支援法での負担増の軽減や、就学援助の充実などを提案しましたが、市長は施設整備に力を入れると強調、増税や制度改悪による深刻な負担増の軽減策について検討すらしませんでした。

また、清瀬小児病院の統廃合を容認し、跡地利用を検討するとしたことは問題です。市民の強い願いからも移転反対を貫くべきです。

賛成討論 民主クラブ

景気回復の兆しがあるものの、今後の三位一体改革や人口減少等考えると厳しい財政運営が続くと予想される。そうした状況の中、職員数削減や給与制度の全面見直し等引き続き行財政改革に取り組み一方、コミュニティバス運行、柳瀬川回廊整備、(仮)大和田公園基本計画作成等、将来を見据えたランドデザインをとらえた施策にも努めている。更に、地域自治の担い手としての市民と行政との協働によるまちづくり型への視点を移すという編成方針は、団塊の世代の退職や少子高齢化社会への対応型予算に向けての基礎となるものと判断し、方向性としても評価できる。

反対討論 清瀬市民会議

市が目指す方向性を是としながら、各論において反対です。

- ① 国民保護法実施による、国民保護協議会などの設置は、日本政府がアメリカの戦争に協力するために作られた法律です。
- ② 障がい者の自立支援法では、定率負担の導入で、生活の混乱や社会参加の機会を奪うのではないかと心配です。
- ③ コミュニティバスの料金を百円にすべきです。
- ④ 就学前の療育を必要とする子ども達のために、竹丘学園を再構築し、療育システムの確立を求めます。

賛成討論 公明党

公明党を代表し、討論を行います。地方分権の推進、協働のまちづくりなど、将来の地方自治を支える行財政全般にわたる体質の改善を図ることが大きな課題であります。平成16年度からの第3次行財政改革は、事務事業の見直しや人件費の削減など評価をするものです。これからのまちづくりの方向や市政運営の3つの考え方についても評価致します。

具体的施策については、私共も要望してまいりました乳幼児医療費助成制度の拡充や交通不便地域にコミュニティバスの導入、小学校に防犯カメラの設置、防災無線の整備など高く評価し、予算の賛成討論と致します。

賛成討論 生活者ネット・民主党

今年度予算で評価できる点として「住環境の整備に関する条例」により地域のまちづくりに地域住民自らが地区計画を提案できるようにした事、交通不便地域へのコミュニティバスの運行を決めた事等がありますが「国民保護協議会」「国民対策本部」緊急事態対策本部の条例提案には賛成できません。現実味の無い想定に基づく計画づくりに力を注ぐより、戦争をさせない体制をつくる事の方が市民の生命・財産を守る事に直結します。また市民ニーズや地域課題の解決には、市民と行政を対等なパートナーと位置づけ、市民活動等の活性化を推進する事を求め賛成します。

賛成討論 清瀬21の会

今回の予算は、経済が低迷状況より脱し、市税も85億円台に回復、地方譲与税、都支出金等の増額が見込まれる比較的良好な財政環境で組まれた積極的な予算です。コミュニティバス、防犯カメラの小学校への配置等安全・安心のまちづくり、児童センターを基点とした子育て支援政策等々の展開を大いに評価する所です。又、(仮)大和田公園計画、清瀬東高校跡地、市民センターの検討等未来に向けたランドデザインも論議されましたが、これには、わが国が既に昨年少子人口減少時代に突入した事も踏まえた行政需要の動向を見極める必要性を指摘し賛成討論とします。

平成十八年度一般会計予算討論要旨